

---

# 格子の花

燈 優

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

格子の花

### 【Nコード】

N6027Z

### 【作者名】

燈 優

### 【あらすじ】

竹林と開けた花畑。

交わされた約束は、いつのものだったのだろうか。

聞こえる歌はどこにでもある馴染んだもの。ひどく柔らかな音程で紡がれるのは、ひどく残酷な歌詞。

ゆーびきーりげーんまーんうそついたらはりせんぼんのーます薬を煎じているのか、餅についているのか。その歌声が届いているのかいないのか。変わらぬ表情で構えるうさぎは誰の為にそこにいるのか。

ゆーびきった

風の音のようにどこからか聞こえていた音は、ふつりと。途絶え再びの静寂が夜を満たしていった。

竹林の中に佇む茶室のような家から千鳥格子の小袖を纏った女性が出てくる。葉の生い茂るそこには僅かな光しか射さず、ほの暗い中で見える色は臙脂のようだ。緑の中を静かに歩く女性から足音はほとんど聞こえずに、時折零れる陽に小袖が紅と染まる。この竹林を熟知しているのか、女性の歩みに迷いはない。ただ淡々と足を運び、時折葉が舞い落ちる。鳥の鳴声が響くこともなく、まだ日は高いというのに。その竹林は不思議な静謐に包まれていた。

どれほど経った頃だろうか。それまで迷いなく進んでいた女性が足を止めた。急に竹林の途絶えたそこには八坪ほどの大きさの地が広がり。そこにはまだ昼であるというのに、月夜の晩にしか咲かぬ花が一面に咲き誇っていた。女性はその花の群生に首を傾げることなく、まっすぐに中心へと向う。花を避けるような素振りはないのに通った後の花は一輪も手折られていることはない。

中心に辿り着いた女性は膝を折り、袖の短い小袖から出ていた手を花へと伸ばす。その指先は花を通り過ぎ、葉を通り過ぎ、茎を滑り焦げ茶色の地へと根に向かい差し入れられた。土は抵抗をみせる

ことなく、するすると女性の指を、手を、呑み込んでゆく。二の腕ほどまで土に埋めた女性の唇が、小さく開いた。音にすれば、あと。呟いたのである言葉はしかし聞こえず。そのまま手を動かし、するとまたするすると女性の手が土から戻ってくる。やはり花は折れておらず、女性の両手は祈りのように組まれている。

それまで表情の変わらなかつた女性の顔が、口が、ついと弧を描いた。組んでいた手をゆつくりと開くと、そこに乗っていたものに大切そうに唇口くちびるを落す。すると笑んでいた唇口は静かなものに変わり。笑うことのない眸から無色の液体が一筋流れた。

女性はしばらくそこに膝をついたまま掌にあるものを見続け、いつしか日は暮れ濃紫の空には月が昇っていた。昼にあれだけ咲き誇っていた花々はまるで今が昼だと言わんばかりに輝きを失い、花弁を散らし。しおれた葉々の真ん中に女性はいた。何を思ったのか。小さく口を開くと掌にある細く短い白いものに呟いた。

「これでやっと、約束を果たせます。」  
月光の照らす枯れた花畑で、千鳥格子が鮮やかな朱色にきらめいた。

女性は立ち上がると、来たときと同じように、しかしその掌には大事そうにそれを抱え。やはり音はなく暗闇と化した竹林を歩く。遠い光に見える深緑は鳴ることはなく、梟の鳴声すらも聞こえない。落ちることのない葉はしっかりと茂っている。やはり足音はなく、女性は茶室のような家へと戻った。

するとそれまでそよと吹かなかつた風が猛々しく吹き荒れ、その風に笹の葉が荒れ狂うように飛び散り、どこにいたのか夜に鳴く鳥の鳴声かけたたましく響き渡った。

しかしその騒動はほんの数瞬で治まり。再び静かと凧いだ風に、ゆつくりと葉を落とす竹。時折ほうと鳴く声が聞こえるそこには、ついでさきほどまであつたはずの家は無く。

ぼっかりと空いた小さな地面に、小さく短い白いものがふたつ。

僅かに重なるようにして眠っていた。  
暖かい月明かりに守られるように。

(後書き)

(2010・4・20・作成)

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6027z/>

---

格子の花

2011年12月20日01時51分発行